

# 英霊にこたえる会たより

## 第41回総会講演

### 「安倍総理を。パプアニューギニアで出迎えて」

英霊にこたえる会中央本部 名誉会長

堀江心入

英霊にこたえる会は、平成27年4月23日「グランドヒル・市ヶ谷」で第41回総会を開催。恒例の記念講演は、平成26年7月の安倍総理夫妻のパプアニューギニア訪問の際、現地で出迎えた堀江正夫名誉会長にお願いした。本資料は、その講演内容である。(小見出し及び注釈は事務局)

#### ◎はじめに

堀江でございます。実は、年寄りがこういう席で話するのは勘弁してくれと言ったのですが、おまえは報告する義務があるということ、とうとうここへ座ることになりました。まあ、大した話ではないと思いますが、しばらくの間、お耳を貸していただきたいと

思います。

まず初めに、皆さま方には、永年に亘り会の目的達成のために大変お力をいただいております。心から敬意を表し、感謝申し上げます。本当にありがとうございます。

先ほど、会長(注1)や皆さんからもお話がありました。4月の9日、両陛下がペリリュー島に行かれまして、あの慰霊碑の前に

英霊にこたえる会  
102-0073 東京都千代田区  
九段北 3-1-1  
靖国神社遊就館内  
電話・FAX  
03-3261-7415  
郵便振替 00120-7-160184

新たな国立の戦歿者追悼施設は、心ある多くの国民の声と力を結集して、断固阻止しましょう。

ぬかずかれました。さらに、アンガウル島のほうを向いて深々と頭を下げられたご様子を拝見して、恐らく、胸が熱くなり、目頭を押さえられた方が多かったのではないかと思います。食い入るような見ましたあの状況が、今でも目に残って忘れられません。

戦場で、いよいよ死ぬという間に家族のことを思い、そして最後に「天皇陛下、万歳」と唱えながら亡くなった皆さんの戦友、英霊のことを思いますと、本当に涙があふれてまいりました。どんなにか英霊は喜びだろなか、という思いで一杯でした。

そのときにちよつと頭をかすめたのは、陛下、そして総理がいつ靖国神社にお参りいただけるようになるだろうかという思いと、もう一つは、国会議員の方々、中でも自民党の議員で、しかも有力だといわれている議員の中に靖国神社にお参りしていない、お参り

しようとも思っていない方がいる、その議員の方々が、あの両陛下の深々と頭を下げられている状況をどのように感じて見ていられたかなという思いでした。

### ◎ ウェワクの慰霊碑の方に

#### 安倍総理の参拝を！

まあ、それはさておきまして、本題に入らせていただきます。総理一行がパプアニューギニアにおいでになる。あく、国の慰霊碑にお参りいただけることになればありがたいがなど、思っておりますところ、幸いにも外交日程の中で正式にお参りになるという情報を耳にいたしました。

ご承知のように、1 国 1 基の慰霊碑が基準になっていますが、パプアニューギニアだけはラバウルと、ウェワクに 2 つあります。私はそのとき、直ぐ何とかしてウェワクのほうにお参りいただけないかなと思いました。その理由は、自分がウェワクのほうの、パプアニューギニア本島の生き残りだというわけではありません。

ご承知のように、ラバウルは、ニューギニアからソロモン方面、全部を統括した今村均大将の第 8 方面軍司令部のあったところです。

また、パプアニューギニアの戦闘が、ニューギニア本島であっただけでないことはご承知のとおりです。ラバウルそれ自体も開戦の翌年の 1 月の 23 日には高知の南海支隊が上陸をし、その晩から猛烈な空襲を受けました。しかし幸いにも、最後までラバウル地区は、地上作戦はありませんでしたが、ニューギニア本島以外のほかの地域でも行われました。あの 6 師団が戦ったブーゲンビル、これは 18 年の 11 月から終戦まで奮闘しています。ニューブリテン島、ラバウルがありますが、その一番西の端、ツルブ、これも 18 年の 12 月の末から 19 年の 1 月まで米軍と激しい戦いをやっています。また、ニューギニア本島の北にありますアドミラルティ、よくマヌス島と言われているここには陸海軍合わせて 4000 名の部隊がおりましたが、19 年の 2 月の末、米軍が上がつてきまして、4 月の末まで奮闘して、ほとんど玉砕をしております。今話しました地区で 7 万の皆さんが命を捧げています。激しい戦闘をやっているのです。にもかかわらず、それではどうしておまえはウェワクと言うんだと。

実は、2 つ、私には意味がありました。1 つは、皆さん、戦争中に「ジャワの極楽、ピ

ルマの地獄、生きて帰れぬニューギニア」ということを聞かれたと思います。また、野呂という作家（注 2）が、帝国陸軍がなめたあらゆる惨苦の集約しているのがニューギニアの戦線だということを言われています。激戦をした、非常に極限の状況下で頑張り抜いたのは、ニューギニアだけではありません。ピルマもそうですし、フィリピンもそうです。さらに、陛下にお参りいただきましたペリリュー島、サイパン島、硫黄島、たくさん玉砕した島があります。

にもかかわらず、ニューギニアの作戦をどのように評価している理由は何かといいますと、ニューギニアの場合は戦闘した期間が長いのです。戦争期間は、開戦から終戦まで 3 年 8 カ月になります。その中でニューギニア本島に一番初めに上がったのは、高知の 144 連隊、福山の 41 連隊を主体にした部隊ですが、それが開戦の翌年の 7 月のことです。それから終戦の前の日まで戦い続けました。こんなに長い三年一ヶ月の期間、極限で戦ったというのは、ニューギニア以外にはありません。

もう一つ言いますと、ニューギニアの戦場というのは広いのです。日本でいいますと、

岡山から津軽海峡の真ん中辺までがニューギニアで戦った戦場なのです。1つの軍でそんなに長い間、そんなに広いところで戦った部隊というのはありません。しかも、初めにポトモレスビー作戦から始めて、最後のアイタペ作戦、そして終戦前の邀撃作戦、随分と激しい戦いをずっとやっているのです。その間、部隊が移動する。移動するのにももちろん自動車道はありません。全部、将兵は荷物を担いで歩いたのです。その道は、平坦な道は殆どありません。3000米、4000米の厳しい山岳を越え、大小無数の河川を渡っていく。さらに、100キロにも及ぶ湿地帯を越えて、ある部隊などは2500キロ以上行動しながら戦闘しています。こういう部隊は、大東亜戦争でニューギニア以外にはありません。

私は、総理が日本の総理として初めて戦場につくつた慰霊碑、それをお参りいただくの一番ふさわしいのがウエワクではないかと、私なりに強く思ったわけです。

もう一つは、実はパプアニューギニアの建国の父といわれている、独立後も日本との友好親善のために、あるいは遺骨収集のときに本当に積極的にいるいと世話をして面倒を

見てくれた総理、マイケル・ソマレといいますが、彼はまだ8歳の子供の頃、駐留していた部隊の将校から歌や読み書きや算数や、いろいろなことを教わったことがありました。それが彼の総理になってからの日本に対する深く温かい姿勢となつていのです。彼は、建国の父として、ニューギニアのお札に肖像が刷られている人です。

彼は今ちょうど80歳になつていまして、ウエワクの地区の州知事をやっています。総理が来ていただくならば、ぜひそのソマレさんに会つて、従来の友誼と協力に対して総理からお礼を言つていただくことができれば大変いいのではないかと、ありがたい、そういう2つの思いからでした。

ということ、こんなことを言うのはどうかと思いますが、総理が外交日程の中でパプアニューギニアに行かれるというのを耳にしてから、私なりにいろいろと根回しをさせていただきました。

例えば、ポトモレスビー駐在の大使に直接手紙を出す。つてを頼つて、外務省の首脳に対して働き掛ける。その成果があつたかどうかわかりませんが、私が先ほど言いました理由から選ばれたのではないかと本当は思っ

ています。それでウエワクに行かれることになりました。私は本当にありがたい。15万名の中の13万名がこのニューギニアの地で亡くなった、その英霊がどんなに感謝されるだろうか、その英霊に代わつて、ぜひとも現地で総理にお礼を申し上げたい、そういう思いでニューギニアに行くことをすぐ決心しました。

### ◎日本遺族会の役員の方々と

#### 共に、総理を現地で迎える

この総会の席に日本遺族会の副会長の森田次夫さん、さらに増矢稔さんが見えています。東京都遺族会会長の宇田川剣雄さんも見えています。遺族会が、尾辻会長をはじめとして、今言いましたお二人の副会長、それから、東京都遺族会会長の宇田川さん、さらに鹿児島県遺族会会長の上村祥子さん、一緒に総理を現地でお迎えするためにおいでいただき、本当にありがたいと思いました。

遺族会の皆さんと一緒にニューギニアまで私を行かせていただきました。この年寄りが行くと言うからだつたかもしれませんが、外務省のほうでもいろいろと配慮してもらいまして、ニューギニアでは総理の訪問団の一員となるようにとのお話しもいただいたのです。

が、私はお断りしました。私は、あくまでも東部ニューギニア戦友遺族会の会長として、13万名の英霊に代わってお礼を申し上げるために行くのであって、訪問団の一員なんてとんでもない。それで、尾辻会長以下の皆さんとずっと一緒にさせていただいたわけです。

そして、11日に総理がウエワクにおいてになり、それをウエワクの国立墓地の入り口で尾辻会長以下の皆さんと一緒に並んでお迎えをしました。そこで総理と握手をしながら私の感謝の気持ちを述べさせていただきました。その後、総理は、州知事ソマレさんの歓迎の昼食会に臨まれ、我々も一緒にその席に出させていただきました。その昼食会が終わりになつたとき、そういうことはあらかじめ何も言われていなかったのですが、ホテルの別室に案内されました。

行つてみましたら、尾辻遺族会長、森田・増矢両副会長と一緒に部屋においでになつており、その席には、総理に随行してきた衛藤辰一特別補佐官とポートモレスビーにおります日本の大使、それだけでした。初め5分ということでしたが、実際には20分にもなりました。そこで総理ご夫妻に親しくお話をする機会をいただきました。尾辻会長もいろいろ

申されましたが、実際にニューギニアの実情、実態を知っているのは私だけでございます。私から、ニューギニアの作戦というのはいかに厳しい戦いだつたか、その中で将兵がどんなに頑張つてくれたかということをいろいろお話しました。

尾辻会長から、この原住民の協力の話をしたらどうだと促されました。戦争中、本場に15万名のうち13万名が亡くなって、戦後、内地の土を踏んだのは1万72名にすぎません。第18軍は、終戦直前の7月の25日には玉砕命令を出しました。頑張つて、頑張つたけれども、もう戦力は尽きる。9月の末には軍司令官を中心に全部で玉砕しようと、そういう命令が出ました。そのすぐ後で、当時の敵は豪州軍でしたが、有力なその豪州軍の部隊が、第一線と軍司令部との間に入り込み、分断作戦を実施してきました。恐らく8月の15日の終戦がなかつたならば、軍は、8月末には玉砕していたことでしょう。

しかし、いずれにせよ、最後に1万名が帰れたというの、原住民の協力のおかげです。食料も弾薬も人員の補充も何もありません。食べるものは、原住民の食べていた芋やサゴヤシのでんぶんのサクサク、あとは、食べら

れるものはみんな食べました。

そういうような状況下でその原住民がいかに協力してくれたかということですが、実は、私は戦後、昭和48年に自衛隊をリタイアした年に、遺骨収集に参りました。増矢遺族会副会長は、そのときに遺族会の参加者15名の代表でした。今、JYMAといっています。が、学生の連中が10名ほど、生き残つた戦友が40名、8カ所に分かれまして、1カ月にわたつて収骨をやつたわけですが、原住民にはそのとき随分と助けていただき、一緒にやつてもらいました。

### ◎オーストラリアはフレンド

#### 日本はブラザー

実は、その時ウエワクに行つたとき、戦争中、軍司令部で、水くみなどを中心になつてやつてくれていた少年がいました。それが、28年後、立派な青年というよりも大人になつて訪ねてまいりまして、「やあ」というようなことで、お互いに、抱き合つて喜び合いました。戦争中のウエワク地区と比べて、28年たつたウエワクは随分と変わっていました。電気がついていて、水道がついていて、家も良くなつています。

いやいや、着ている物が、戦争中は、男は腰巻きのようなラブラブ、上半身はもちろん裸です。女性は、ブルブルという腰みの、上半身はもちろん裸です。子供は全部真っ裸。それが、それなりにみんな服を着ています。全く裸足だったのが、中には草履を履いている者もいました。

それに、ココヤシといえば、大体、部落に子供が生まれたときに植えるヤシ。ところが、広いココヤシ林があちらこちらにできていまして、その中にはカカオも植えている。収入が上がるようにとの豪州の施策です。戦後 28 年たち、独立のための臨時政府はできていましたが、豪州がまだ委任統治をしていた時代です。豪州にいろいろとやってもらって、生活も向上し、店もでき、市場も毎日立っている当時、我々のときは、金など全然通用していなかった。それが、キナという札を広く使っていました。

「本当に良かったな」と、心底そう思っただけに云いました。そうしたら、彼は何て言うたと思います。「いやいや、オーストラリアはフレンドだ、ジャパニーズはブラザーだ」と言うのです。えっ、これだけ良くしてもらったオーストラリアが友達で、戦争中、あれだけ

みんなの生活をぶち壊してしまって、みんなをひどい目に遭わせた日本軍が兄弟とはどういふことだと聞き返しました。それはそうだと彼は言うのです。「だって、日本人は、我々と一緒に同じものをつついて食べたじゃないか」、「日本人は、我々と肌を付き合わせて寝たじゃないか」と。

そう言われてみますと、当時まだ教会で残っているのがありました。ほとんどの原住民はクリスチャンです。ところが、その教会、説教をするのに牧師や、白人たちが原住民を教会の中に入れてません。あるいは、入れても、原住民は不潔ですし、殆どの原住民が皮膚病を持っていきますので、牧師の私生活には一切近づけません。それに反して、我々、日本軍は人種的偏見がありません。加えて、何しろ原住民の助けを受けなければ生きていけないような状況下です。初めて人間として認めて貰ったという日本人に対する思い——これがニューギニアの人達の共通した日本人観となっている。そういう話を総理にも申し上げました。途中から昭恵夫人は、時々目頭を押さえて、ハンカチを出して涙をふいたりしながら聞いていただきました。

### ◎未帰還遺骨の収集

さらに、その後の遺骨収集の状況もいろいろと申し上げました。硫黄島は、もう 3 年経って、1 年 10 億円の予算がついて遺骨収集をやっています。硫黄島の残っている遺骨は、1 万体制というふうにいわれています。この東部ニューギニアでは 13 万名が死んで、今までのいろいろな手段で 5 万名ほどの遺骨が帰っています。あと 8 万残っていて、厚生省も一生懸命やってくれて、未帰還遺骨現地事前調査制度等、効率が上がるようにとやってくれています。現在のところ、1 年で大体 200 柱程度です。何年たつてもどうしようもありません。年間の遺骨収集の予算は、東部ニューギニアで 2500 万円です。

「えっ、たったそれだけでやっているの」という総理の嘆声です。さらに、現地の住民の世話になつている状況をいろいろとお話しました。

終戦後、初めの時期、遺骨収集に私どもが行きましたときには、病院の跡とか、長く部隊が駐留していた跡などで、遺骨を埋葬したところがわかっているとところを中心をやったわけです。だから効率も上がりました。とこ

るが、ニューギニアで亡くなったのは13万名。実は戦闘で亡くなったのが、3割5分から、多く見ても4割です。あとは栄養失調です。餓死しているのです。それも戦場で戦いながら亡くなった人もいますけれども、多くは、先ほど言いました3000米、4000米の山岳、あるいは大小無数の川を渡河しながら部隊が行動する、その途中で亡くなった。今の遺骨収集は、そういう途中で亡くなった人が主なのです。だから、なかなかわかりません。我々の遺児のメンバーが現地に入り込みまして、現地の人たちとの信頼関係の基に情報を集め、遺骨を収集しているのが実情です。もっと組織的にしなければどうにもならない。そういう話を、20分間申し上げたわけです。

### ◎住民挙げての歓呼歓迎

総理が飛行機でウェワクに着かれてから帰られるまで、総理が行動される沿道は、両側が全部住民の人の波でした。日の丸の旗と、それから、極楽鳥のあのパプアニューギニアの旗、これを振って迎えます。さらに、歓迎のプラカードをつくっています。さらに、シンシンの服装で総理を迎える。総理も夫人も、今までに何度も外国に行ったが、こんな歓迎

を受けたことはない、いやいや、自分の故郷の山口へ行ってこんな歓迎を受けたことはないと言っておられました。総理が通られる道は、舗装はなく砂利道ですが、きれいに整備され、学校はその日を休日にして、地域の住民全員でお迎えしたわけです。それらは皆、ソマレさんのご配慮によるものでした。

皆さま、ウェワクに行かれたこと、ありませんか？ 行かれた方は、洋展台に行かれたかと思えます。洋展台というのは、ウェワクの一带を見渡せる丘で、そこには大きな教会の本部があったところです。戦争中は、初め、20師団司令部が一時おりました。その後、飛行第6師団司令部があり、最後は、第4航空軍司令部があった台上ですが、そこに神戸の遺児の西垣君が中心になって、大きな忠霊碑をつくっていました。

私は毎年のように慰霊巡拝に行っていますが、年を経るに従って傷んでおり、これは何とかしなければいけない、と思っていました。前日に遺族会の皆さんと一緒に行ってびっくりしました。きれいに整備してありました。誰がやってくれたのかと思ったら、ソマレさんがやってくれたのでした。さらに、その慰霊碑の横に新しく慰霊碑がつくってあ

りました。総理がその昼食会の後で行かれたときに、総理ご夫妻でその除幕をされました。それは、やはり総理に除幕をしてもらうためにソマレさんがつくった碑でした。

おかげで、総理にウェワクにお出で頂き色々とお話をする機会を得て、本当に行った甲斐がありました。13万の英霊にも最後のやさやかなお務めをすることができたこと心から感謝しています。

さらに、実は、総理がポートモレスビーから羽田まで帰られる飛行機、政府専用機ですが、年を取っておるから、かわいそうだから一緒に乗せてやろうという外務省関係の人の厚意があったのだと思います。私一人がそれに乗せてもらいました。民間人というのは普通乗れないのです。専用機に乗っているのは、総理が行かれるときは総理夫妻と、その随行人達です。秘書官であり、今度は副長官も1人、それから特別補佐官も1人、あとは、関係の各省の局長級、さらに課長級、新聞記者等です。私は乗せていただきまして、昼飯を総理夫妻とごちそうになりました。飛行機の中でこんなにごちそうが出るのかと思うほどフランス料理でごちそうが出まして、総理夫妻と私と衛藤特別補佐官と4人だけでした。

だきました。食事に 1 時間ぐらいかかりました。

◎自衛官に名誉と誇りを！

その間も総理と私二人で戦争中の話をいろいろしましたが、その前に、実は今年春、総理が自衛隊の統合幕僚会議議長に勲一等の叙勲(注3)をされました。今までは、統合幕僚会議議長、陸・海・空幕僚長クラスの叙勲は勲二等(注4)で、そこにいる志摩君(注2)も西元君(注6)もみんな勲二等でした。ところが、勲一等(注4)。このことを私は、「総理、ありがとうございます、どんなに現職の自衛官を含めて土気が上がっているか、想像以上だと思います」と申し上げましたら、「いやいや、あれをやるのは随分抵抗があったね」と云われました。それはそのはずです。大体、防衛省の中では大臣、副大臣、今は政務官がいますが、その下に、大体、全部を統括するのが、今までは事務次官ですが事務次官では勲一等を貰った方はいません。それを統幕議長が初めて勲一等をいただいたのです。しかし、この問題については、実はこんなことを言うのはおかしいかもしれませんが、私が参議院の議員時代に随分と防衛省(當時は

防衛庁)その他と、あるいは当時の鈴木総理のところへ直訴したりしてとりあげさせて頂いた問題でした。自衛官の地位が文官に比べて低い、お話にならないぐらい低いと述べました。

勲章も、外国の軍人には戦前旧軍人に授与していたものと同等のものを授与しているにも拘らず、自衛官の場合は、旧軍の大將相当(注7)の統幕議長、陸・海・空幕僚長クラスにも勲二等しか授与されていません。勲二等というのは、大体、旧軍のときには少将です。鈴木総理のところに行つて話したときには、「君、そんなに言つたつて、すぐはできないよ」と、それに続き「防大の卒業生が叙勲を受ける時期になったときにはちゃんとするからな、それまで待てよ」と、こう言われたのです。でも、鈴木総理は亡くなられてしまい、元の木阿弥になってしまいました。

そのほか、いろいろな問題をお話しする機会がありました。本当に、去年の7月というのは、私にとつてこの上ない満足の月日でした。(以下割愛)

.....  
(注1) 寺島泰三会長代行のこと  
(注2) 野呂邦暢氏。第70回芥川賞受賞作家

(注3) 平成26年春の叙勲で元統幕議長竹河内捷次氏(防大9期) 瑞宝大綬章を受章

(注4) 平成15年の栄典制度の大幅見直しで、従来の勲等は廃止された。大綬章は勲一等、重光章は勲二等であった。

(注5) 志摩 篤氏。借行社理事長・元陸上幕僚長・瑞宝重光章受章(防大1期)

(注6) 西元 徹也氏。隊友会会長・元統幕議長・瑞宝重光章受章(防大3期)

(注7) 統合幕僚長及び陸・海・空幕僚長の階級は「将」であるが、国際儀礼上は大將扱いとなっている。

堀江正夫名誉会長略歴

大正四年新潟県糸魚川市出生(本籍広島県)・陸士50期・陸大57期・第18軍参謀で終戦(陸軍少佐) 昭和27年陸上自衛隊入隊・西方総監(陸将)で退官。参議院議員2期12年・日本郷友連盟会長・英靈にこたえる会会長を歴任、現在東部ニューギニア戦友・遺族会会長



靖

國

カ

レ

ン

ダ

ー

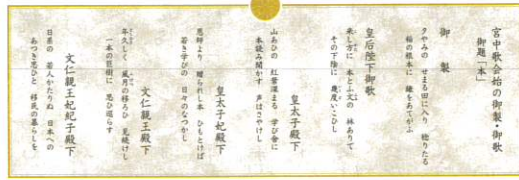
やす  
くに

英霊にこたえる

一億国民のこころを結集しよう。



靖國神社にて、皇霊にこたえる神職(新年祭)



1			靖國			2		
平成28年								
			1	2				
		3	4	5	6	7	8	9
		10	11	12	13	14	15	16
		17	18	19	20	21	22	23
		24	25	26	27	28	29	30
		31						

英霊にこたえる会

靖國神社(東京都千代田区千代田1-1)、靖國神社(東京都千代田区千代田1-1)、靖國神社(東京都千代田区千代田1-1)、靖國神社(東京都千代田区千代田1-1)

1-2月 快晴の空の下、本殿へ参進する神職(新年祭)

▲これは縮小版です。原寸は縦54.5×横36cmです。

- 靖國神社への総理・閣僚の公式参拝を定着させましょう。
  - 「靖國神社は、我が国の戦歿者追悼の中心的施設である」
  - 国家、国民がこぞって戦歿者英霊に感謝の誠を捧げましょう。
  - 英霊顕彰の国民運動の輪をひろげましょう。
- 「靖國カレンダー」を一家に一部掲げましょう。



3-4月 桜が咲き誇る靖國神社参集殿



5-6月 御祭神56,700余柱・岡山縣護國神社



7-8月 ぼんぼりの光に包まれる境内。平成26年靖國神社みたままつり(毎年7月13日～16日)



9-10月 雨の中、勇壮に境内を進む家康公神輿・家康公神輿振り委員会による奉納(平成25年秋季例大祭)



11-12月 御祭神41,870余柱・宮崎縣護國神社

※カレンダーの絵柄については、多少変更する場合がございます。



英霊にこたえる会